

蘇南中だより



自己を生かす生徒
助け合い励まし合う
知恵を働かす
たくましくやりぬく
令和7年7月1日発行

タブレットが未来へつなぐ

教頭 可児 美紀

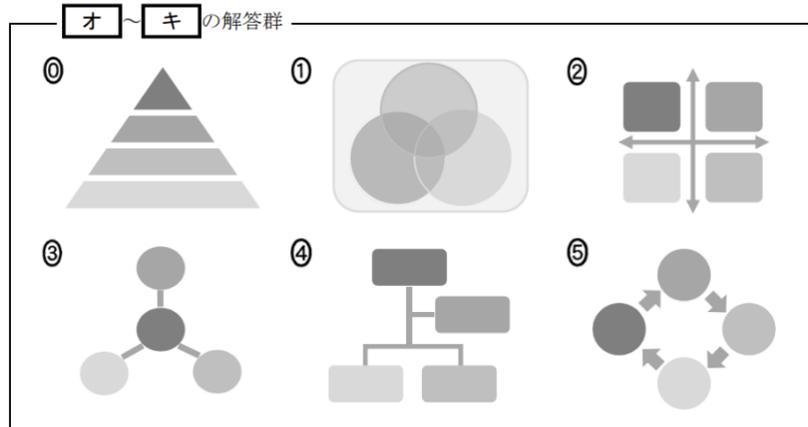
令和7年度から大学入学共通テストでスタートした教科「情報」について、文部科学省は、サンプル問題を公表しています。一部を抜粋して紹介します。

解答群に示された6種類の図は、生徒は、自分の考えを表現するツールとして使い始めています。これらの図は、タブレットのアプリ「ロイノート」に、「シンキングツール」として位置付いていて、生徒は、いつでも利用できます。

中学校では、大学入試の基礎となる学習を学んでいます。今はツールとして利用しているタブレットも、入試対象となった教科「情報」につながる技能を学んでいることとなります。

問2 次の文は、学習成果発表会に向けて、3人の生徒が発表で用いる図について説明したものである。内容を表現する図として最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

生徒A：クラスの生徒全員の通学手段について調査し、「クラス全員」を「電車を利用する」「バスを利用する」「自転車を利用する」で分類し表現します。 **オ**



新しいタブレットを導入してほんの一ヶ月、生徒の活用力を感じます。

- 自分の考えを表現する量の増加、表現の幅が広がっている
 - ・ペンが自動で文字化、モデルや記号も簡単にかいている
 - ・何度も修正、加筆をして考えを深めている
- 進んで問題に取り組む姿勢UP、進んで調べるやる気UP
 - ・5教科問題集アプリ「Qubena キュビナ」を、自分で進めている
 - ・わからない言葉を、検索してすぐに調べている
- 考えの見える化で交流の多様化、課題提出率UP
 - ・タブレット上で共有したノートや提出した課題は、互いに見合い、仲間の意見を取り入れて、自分の考えを深めている



右は、5教科問題集のアプリ「Qubena キュビナ」です。3段階のうちの「導入」では、言葉を選んで文をつくり、基礎的な内容を確認られるようになっていました。生徒は、自分でレベルを選び、進めています。